

今年度第2回目となる外国語活動・外国語の研究授業を石井伸樹教諭が行いました。新型コロナウイルス感染症対策のため体育館で行いました。協議会では、やり取りの活動における中間指導や時間配分等について活発な意見交流を行いました。

研究主題

関わり合い、学びを広げ、深める児童の育成

～思いを豊かに表現できる授業づくりを通して～

授業者:4年2組 担任 石井伸樹 教諭

単元名:Unit 3 I like Mondays./ Unit 4 What time is it?

指導講評:文部科学省初等中等教育局視学官 直山木綿子 先生より



〈研究経過報告〉

① 振り返りカードの工夫

振り返りカードを毎時間確認し、めあてに正対した振り返りを行うことができたか確認をしながら授業を進めていった。また、自己評価の低い児童や、めあてに正対していない振り返りを書いている児童には声掛けを行い、児童の意欲や意識を高めた。

② 目的・場面・状況等を明確にした言語活動の工夫

単元の始めにエンドプロダクトを提示し、どんな力を付けたいか児童が見通しをもてるようにした。最後に6年生に好きな曜日や時間を尋ねるインタビューを行うことを伝え、そのために必要な表現に繰り返し慣れ親しませるよう活動の工夫を行った。また、中間指導を行い、児童が言ってみよう表現を児童同士で話し合わせる時間を設けた。本時では、児童にめあてを提示する前に「先生たちの好きな曜日や時間は何か?」の動画を見せることで、伝え合うことへの関心・意欲を高めた。

③ 表現を繰り返し使うための工夫

生活の中で曜日の英単語に聞き覚えがある児童が多いが、単元の始まる段階ではどの単語がどの曜日を指しているか明確に理解している児童は少なかった。そこで、まず児童が曜日等の単語をくり返し発音し理解するようにするために、教師用絵カードを使用したポインティング・ゲームやキーワード・ゲームを取り入れた。また、朝の会で「Sunday, Monday…」の曲を歌ったり、その日の曜日をWhat day is it?と尋ねたりするなど、外国語活動の時間外でも英語に慣れ親しむ時間を設けた。時刻についても、a.m.とp.m.の概念を理解することができるよう日々の生活の中でWhat time is it?と尋ねることで、慣れ親しんでいった。

④ Unit 3, Unit 4を連結させた単元計画を立てる意義について

Unit 3 "I like Mondays."では曜日について、Unit 4では"What time is it?"では時刻や日課について扱っている。この二つの単元を連結し、一貫した単元計画を立てた理由は大きく分けて二点ある。

一点目は、児童の好きな生活を伝え合う上で、好きな曜日とその理由といった単一的なやり取りではなく、時刻を含めて好きな生活を伝え合うといった見通しをもたせることで、児童の思考の幅を広げることができるのではないかと考えたことである。

二点目は、第四学年という高学年への橋渡しとなる時期に、簡単な英語表現でのやり取りに慣れ親しむことで、高学年でのスモールトークへスムーズに移行できるのではないかと考えた。

以上の理由から、二つの単元を組み合わせる単元計画を構成した。

〈授業者自評〉

・本学級は外国籍児童が多く、Unit 1 "Hello, world"では、その児童たちの母国語の挨拶の仕方を知り、発音することで、英語のみならず様々な国の挨拶に関心をもつことができ、単元が進むにつれて、新出表現の天気や遊び等も繰り返し口に出したり友達同士で伝え合ったりすることができるようになってきている。

・授業をしてみて、一番難しかったのは中間指導。前回の深谷教諭の授業を参考にしようと思ったが、6年生と比べ、4年

生はボキャブラリーが少ないと感じた。

・児童は「伝え合う活動」が好きなのに「聞く活動」に多くの時間を使ってしまった。

〈研究協議〉

良かった点・・・○ 改善点・・・● 質問・・・■

【低学年】

○伝え合う活動を多く取り入れて凄と思う。児童も楽しそうに取り組んでいた。

○2つの単元をつなげたことで、言いたいことの幅が広がっていた。on ~を加えることでリズムができ、児童もリズムカルに発言していた。

●導入が長いと感じた。touring は児童の生活に関わりがないので聞き取りが難しかった。動画の順番を児童が親しみやすいものから先にしたら良い。

【中学年】

○児童が意欲的だったのがすごいと感じた。児童の意欲をかき立てる指導はとても参考になった。

●めあてに行くまでに少し時間がかかりすぎている。前時でも同じことをやっているのもっと簡単にして良いと思う。

■導入のビデオではイラストカードを使用したけど、担任のデモンストレーションではイラストカードを使用していなかったの
で何か意図はあるのか。

⇒導入だったの、聞くことが難しい児童に対して視覚的にわかるようにした。担任のデモンストレーションは聞くことに集中してほしかったので、あえて提示はしなかった。

【高学年】

5年

○最後に6年生に好きな曜日や時間を尋ねるインタビューを行うというエンドプロダクトがしっかりしていたので、児童が目的意識をもって活動に取り組んでいる。

○5年生でもインタビューの時間が短いと「もっとやりたかった」との意見が多い。なので、授業の時間が延びる気持ちは理解できる。

6年

●I like ~.の後に何を言えばいいか迷っている児童が多かった。好きなことなのか食べ物なのかもっと明確に伝えるほうが良い。

【特別支援】

○最後の振り返りで、言いたいことや聞きたいことを書かせることによって次回の授業への意欲付けになっていた。

●書く活動以外の時は、筆箱は引き出しに閉まっていいと思う。机の上をすっきりとさせることも大切である。

【英語教育アドバイザー 堀越 教諭】

○Unitを2つ合体したことで曜日の定着ができていた。また、動画で表現を何度も聞かせたことで意欲的に聞こうとしていた。

【足立区立 六月中学校 有馬 教諭】

○良かった点や参考になった点が4つある。

① 導入の教材ビデオで身近な先生を起用したことが、児童の意欲に繋がっていた。

② 基本は英語で指示を出していたので凄と思った。2、3回繰り返したことでわからなかったことがわかるようになった

③ Unitを合体させたことで児童により身近な題材になった。

④ 中学校としては「書くこと」「読むこと」を徹底指導していき、「文字」や「文章」として認識できるようにしていく。

〈指導・講評：文部科学省初等中等教育局視学官 直山 木綿子 先生〉

児童の感覚を大切に

・教師側は言葉が増えると「難しい」と判断してしまうが、児童は「リズム」「合図」を重要としている。だから on ~を加えたことで「リズム」や「合図」となり、児童は長い文章でも言うことができた。

・児童には児童なりの「言語習得」がある。今後、教材を作る時の参考にすると良い。

教材と児童を結びつける

・教師の役割は、教材と児童をどう結びつけるかということである。

・導入のビデオで身近な先生を使ったことで、児童は今日の授業に興味・関心をもつことができた。

決まったやり取りだけでなく質問をする

・ペア活動では「決まった質問」「決まった答え」でのみやり取りをしている。コミュニケーションが膨らんでいない。

・「話し手」を育てるのは「聞き手」。質問の内容によって答えが変わり、答えが増えていく。

・質問され、どう答えればいいのかわからないときに中間指導を使って指導者に聞けば良い。中間指導をすることで表現が増える

・児童は質問することに慣れていない。英語の授業以外でも児童に質問する習慣を身に付けると良い。

児童が分かる単語を教師が理解し、中間指導を行う

・「名詞」を聞かれた時は、小学校生活で使うかどうか判断し、使わないと判断したら日本語で表現するよう指導しても良い。

・小学校生活で獲得してほしい語句や表現を教師が理解しておく必要がある。学んだことをつないでいくことが大切。

中学校との連携

・小学校の外国語活動は、音声による活動を行う。

・小学校高学年外国語科での「読み・書き」は、基本的には書き写し。自分で内容を考えて、「文章」を書いていくのは中学校からスタートする。

・中学校と連携し、お互いの外国語活動や英語教育について理解し合う必要がある。